

ウソと泣き言を書きつらねた自動車労働組合

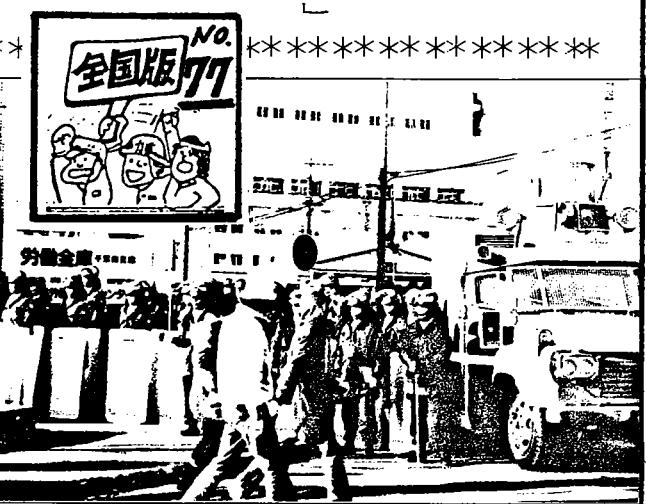
(オ/361号・1981年2月4日付)



81.2.15
No.77

国鉄千葉自動車労働組合

千葉市要町二一八(自動車会館)
(鉄道)二九三五六(公衆)033-227207



全国の自動車労働組合員のみなさん。

本紙(全国版七六号)で既報の通り、自動車労働組合員の一月総決起行動をもって、「本部」革マル反動分子による自動車労働組合解体!!八一・三ジェット延長阻止スト破壊を唯一目的にした一・三〇「再建地本」デッチ上げ策動を粉碎しました。あまりにもミジメな破壊的事態においつめられた「本部」革マル反動分子は、それを隠ベイし、あたかも「再建」策動が順風満帆進んでいるかのごとく描きだすために「自動車新聞」一三六一号をもって「千葉再建大会圧倒的成攻」と宣伝していきます。その記事の内容をみれば一目瞭然、ウソと泣き言が列記されたものであります。およそ「圧倒的成攻」等とは程遠いデッチ上げによる空虚なものに終つてしまつたことは、当日千葉県労働者福祉センターにかり出された労働者が一番よく理解しているのです。われわれは、「本部」反動分子の泣き言は泣き言としてせいぜいワメカしてやることにします。しかしウソとペテンは事実をもつて粉碎してやらねばなりません。

「再建大会」の虚像と破産した実像

全国の自動車労働組合員のみなさん。まず「千葉再建大会圧倒的成攻」なる記事をよく熟読してみて下さい。彼らが報じる記事内容によると「再建」「茶番劇」の虚像性をはつきりと見てとることができます。

『(一)十二月銚子支部再建決定したが、「千葉自動車」側の妨害策動によって一月二七日支部臨時大会で再建決定をひとまず白紙にもどすことにして、しかし心ある多くの組合員は必らず再建地本に合流することを固く決意しています。

『(二)「千葉自動車」はマスコミを使って「混乱・衝突」を描きだした。国家権力は「大会を中止してくれ」と言ってきた。

『(三)大会成功こそ最大の目標、全組合員の確認のうえ千葉事務所に会場を移し再建大会開催を決定した。

『(四)「千葉自動車」は大会破壊を策し準備委員会が案内した各方面の来賓にもオドシ泣き落しで圧力をかけた。しかしことごとく失敗した。

『(五)大会は代議員・傍聴者五十名を結集して成功し、山下・斎藤・土屋新三役を決定した。』以上が「本部」革マル反動分子によって描かれた「再建」劇のストーリーです。しかしこれは真赤なウソでありペテンであります。

実際は、(一)についての真実は、

一月二七日銚子支部臨時大会は、当時の支部長が臨大招集を行い「業務再開」を提案したのであります。この執行部提案を大会の場で銚子支部組合員が自ら選択し満場一致否決したのであります。

これが「再建」されたという実態です。こんなペテン的「再建」に数億円もの貴重な組合費をつぎこむ「本部」革マル反動分子の責任は重大です。

一刻も早く彼らを自動車から一掃し自動車大改革を

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！